

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年5月17日時点)

➤ **露軍が各正面で攻勢を強め、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続する一方、ウクライナ軍は火砲や砲弾、防空ミサイルなどの不足に直面する中で防御戦闘を継続**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者46.5万人以上 (英国防省24年5月4日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- ゼレンスキー大統領は、露軍のハルキウ攻勢に言及し、同方面に追加戦力を派遣すると発言 (5月10日)
- 露国防省は、11日: ハルキウ州ポリシウカ、オヒルツェヴェ、プレテニウカ、ピリナ、ストリレチャ、ドネツク州ケラミク、12日: ハルキウ州ハチシチェ、クラスネ、モロホヴェツ、オリニコヴェ、14日: ハルキウ州**ブフルヴァトカ**、15日: ハルキウ州フリボケ及び**ルクヤンツィ**、ザポリヅジャ州**ロボチネ**を解放と発表 (5月11日)
- ゼレンスキー大統領は、露が「ウ」軍を分散させることを意図してハルキウ州を攻撃と発言 (5月12日)
- フィナンシャル・タイムズ紙は、35,000人/2個軍団規模の露軍がハルキウ正面に展開しているが、ハルキウを占領するには不十分と報道 (5月16日)
- 「ウ」情報総局は、最大5個大隊からなる露軍部隊がハルキウ州ヴォウチャンスクを攻撃していると表明 (5月13日)
- 「ウ」情報総局は、ハルキウ州、クラマトルスク方面 (バフムート正面) 及びポクロウシク方面 (アウディウカ正面) に露軍が注力と表明。また、「ウ」軍が**ルクヤンツィ**、**ヴォウチャンスク**等で、より有利な陣地に後退と発表 (5月14日)
- 「ウ」情報総局長は、米メディアに対し、「ウ」軍の戦力がハルキウ又は**チャシフ・ヤール**正面に集中しており、予備戦力は残っていないとするほか、露がハルキウ州北部の**スーミ**地域に新たな攻勢をかける可能性に言及 (5月14日)
- 「ウ」情報総局は、**ヴォウチャンスク**地域において敵の進軍を撃退し、部分的に敵を撤退させた、北部及び北西の郊外で戦闘が継続と発表 (5月15日)

- 「ウ」地上軍司令官は、米国の支援が前線に到着し始めたところであるため、今後2か月が戦争の重要な局面と述べたほか、6月初旬にF-16の納入が予定と発言。また、自身の急務として、新たな10旅団の準備を挙げ、同部隊の一部は首都防衛のために配備されると発言 (5月10日)
- 米国防省は、「ベトリオット」防空システム用等各種弾薬を含む大統領取り崩し権限 (PDA) に基づき、最大4億ドル規模の追加の安全保障支援を発表 (5月10日)
- 米國務省は、ウクライナに対する約3000万ドルでのHIMARS3基の緊急売却を承認と発表、購入費用はドイツが負担する (5月10日)
- プーチン大統領は、ショイグ国防相を解任かつ安全保障会議書記に任命する一方、後任としてペロウソフ第一副首相を国防相に任命 (5月12日、14日)
- 米國務長官は、「ウ」の防衛産業基盤を強化するための20億ドル規模の軍事支援を発表。また、「ウ」領外への攻撃について、推奨はしないが「ウ」自身が判断するものである旨発言 (5月15日)

- 露メディアは、「ウ」軍が高機動ロケット砲システム (HIMARS) により、準備されていた「ドネツク人民共和国」10周年記念イベントを攻撃と報道 (5月11日)
- 「ウ」陸軍第110独立機械化旅団は、アウディウカ正面において、露軍のSu-25を撃墜したと発表 (5月11日)

- 主要都市 (下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点 (接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等